※令和３年度以前入学生用

２　地理歴史・公民

学校番号	T2101

令和５年度　地理歴史科

教科	地歴	科目	日本史Ａ	単位数	２	年次	１～４
使用教科書	高等学校日本史Ａ　新訂版　（清水書院）						
副教材等	標準高等地図 - 地図で読む現代社会 -						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日本史Ａでは、日本の近現代の歴史、特に江戸時代の終わりごろから現在までの歴史を学びます。この頃は、それまでの政治のしくみや文化に加えて、諸外国との関係も大きく変化した時代です。数々の変化や出来事が起こった背景や理由、そしてその影響に注目しつつ、日本と世界の動きの両方から捉えることを目標としています。また、私たちが生きる現代社会のあり方にも注目します。

日本史Ａの内容は現在の日本の姿やあり方を考える上でとても重要なものです。日本史Ａの勉強を通して、いろいろなことを考えていきましょう。

２　学習の到達目標

① 日本の近現代の歴史や諸外国との関係を、日本国内の動きに加えて地理的特徴、当時の世界の動きとを関連させて考えることができる。

② 日本の近現代の歴史を学び、現在までの歴史の大きな流れを整理し、理解することができる。また、学習内容を元に現在の日本のあり方や課題を論理的に考えることができる。

③ 歴史的事象を資料や根拠に基づいて実証的・批判的・多面的に考察することができる歴史的思考力を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・近現代の歴史に対して興味関心を高め、主体的に学習に取り組むことが出来る。 ・歴史的事象の意義や影響などを、他の事象や世界の動きと関連させて考えようとする。	・学習内容を地理的条件や世界の歴史などと関連付けて、実証的、多角的、多面的、批判的に考察することができる。また、自分の考えを適切に表現することができる	・様々な資料や教材から、有用な情報を適切に読み取り、活用することができる。 ・意見を述べる際に、資料を活用し、根拠に基づいて主張することができる。	・近代から現代に到るまでの歴史の大まかな流れをおさえ、基本的な知識を身につけている。 ・日本国を地理的条件や世界の歴史とも関連付けながら理解出来る
評価方法	・授業プリントへの書き込み ・課題 ・出席点	・課題 ・定期考査	・課題	・課題 ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	・私達の時代と歴史 ・国際環境の変化と明治維新 ・近代国家の成立と国際関係の推移	・私達と歴史の結びつき ・私達の時代 ・１９世紀世界の動向と日本 ・開国と倒幕 ・明治新政府の諸改革と社会の変化 ・明治初期の外交と反政府運動 ・自由民権運動の展開 ・立憲体制の成立 ・日清戦争と国際関係 ・日露戦争前後の世界と日本	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:近現代の歴史を学ぶ目的や意義をふまえ、主体的に学習に取り組んでいる b:日本の近代の出来事を地理的条件や世界の歴史などと関連させ実証的、多角的、多面的、批判的に考察し、考えを適切に表現することが出来る c:これまで学んだ知識や資料を元にして、歴史的事象や出来事の背景や関連性への理解、考察を深めることができる d:日本の歴史を、当時の国内の特徴や世界の帝国主義の動きとを関連させて理解しているかどうか	・出席 ・課題 ・定期考査
	・両世界大戦をめぐる国際情勢と日本 ・現代世界と日本	・帝国日本と第一次世界大戦 ・政党政治と大衆文化 ・軍国日本への道 ・太平洋戦争と日本 ・現代世界の開幕と日本の戦後改革 ・日本再建と復興への道 ・米ソ二極構造の世界と国内の再編 ・高度経済成長の時代 ・低成長から経済大国へ ・冷戦の終焉と日本	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:現代社会の形成に大きな影響を与えた事象や、戦後社会の動きに関心を持ち、民主的な社会の形成者としての自覚をもって考えることが出来る b:近現代史の展開や現代社会の変化について歴史的に考察し、適切に表現できる c:これまで学んだ知識や資料を元にして、歴史的事象や出来事の背景や関連性への理解、考察を深めることができる d:戦後の日本史を冷戦構造、経済構造、政治体制などに注目して理解しているかどうか	・出席 ・課題 ・定期考査
後期は実施しない								

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。